

ンチ前後である。御拝所西側の各柱穴は、土層をこれと同じくし、黄褐色粘性砂層はほとんど水平に走っていて、当陵築造時の外堤の封土と見られる。なお、前記の円弧をなして直立する円筒埴輪片と同じレベルに、堀に平行するように隣接して、円筒埴輪片のかたまつてうもれているのが認められるので、第一堤の第二濠側の肩部には円筒埴輪列の存在が推測される。検出した埴輪片は、ポリエステルフィルムで覆って埋め戻し、フェンスの柱はこの部分を避けて埋設することとした。

御拝所の東側の土層は、西側のそれとほぼ等しいが、黄褐色の粘性砂層の存在は西側ほど明瞭ではない。第二堤については、参道の東側は昭和四十七年七月見張所改築の際の事前調査で、厚い盛土であることが判明したが、西側に於ても柱穴の掘削面には、ブロック状の粘性土しか認められなかった。

(戸原純一)

七 景行天皇陵渡土手樋管改修工事の調査

当陵は奈良盆地の東縁の傾斜地に位置しているので、その周濠は、水位の異なる一〇箇の堀に分れている。そのうち最も水位の高い、後円部のまうしろにある五号堀は、当陵に隣接する渋谷部落にとって、今なお重要な用水源となっている。それが北の下手に接する四号堀との間にある渡土手の樋管から漏水するので、その改修工事が昭和四十九年一月から二月にわたって実施された。よって樋管を掘り上げる一月二二日から三日

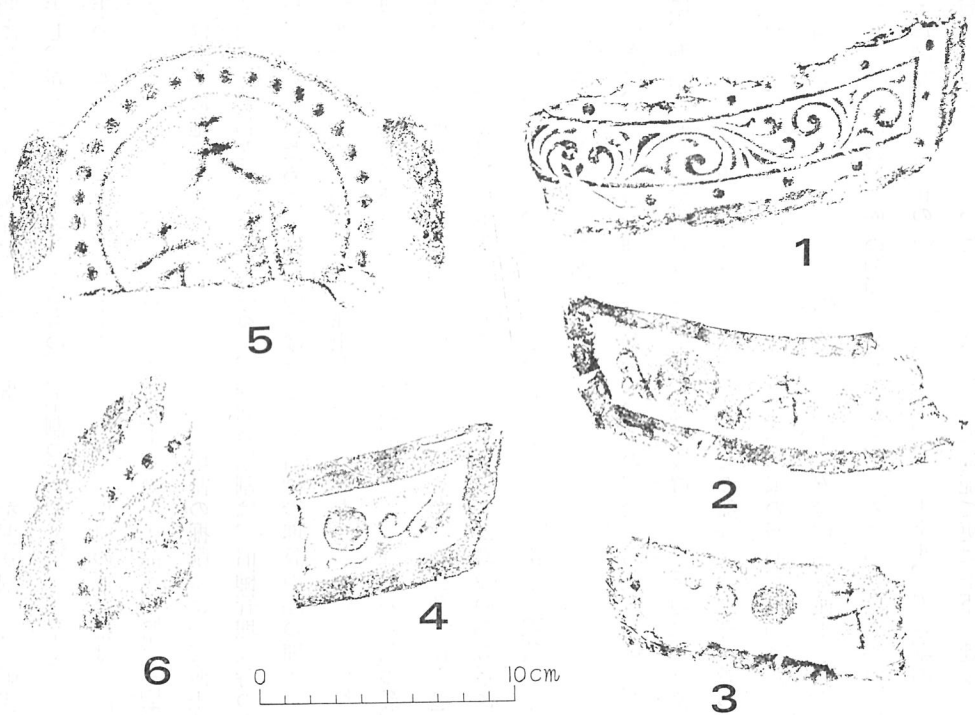
間にわたって立会調査を行った。工事は渡土手を掘り割って旧樋管を撤去し、新たに樋管を埋設するもので、堀割の延長は約一七メートル、渡土手の天端からの深さは三メートル以上に達し、堀割の堀削幅は基底部で六〇センチであった。(景行天皇山辺道上陵の出土品「所収第一図参照」)はじめに地質の状況について述べると、堀割の堀削によって渡土手の断面があらわとなったのであるが、今回の堀割は、旧樋管埋設時の堀削幅よりも狭いために、堀削面にはほとんど旧樋管埋設の際の埋め戻し土である黄褐色或は暗灰色の粘性土しか認められなかった。しかし樋管の埋設位置が、旧樋管のそれよりやや深い部分では、堀割の壁面の最下部及び堀削底面で地山が検出された。地山は、青色、青灰色、暗緑色など多様な色調を呈し、土質は概して粘性である。梅田教授の御教示によれば、花崗岩、片麻岩、閃緑岩などの岩屑が堆積して出来た洪積期末頃の地層であろうとのことであった。

つぎに、この堀割を埋め戻した後も、この部分から漏水しないように、堀割に直交して五号堀寄りに遮水壁を設置した。そのため堀割の幅より左右に各約四〇センチ掘り拡げたが、この部分は旧樋管埋設の際にも掘削されなかったところなので、渡土手本来の断面が顕われた。断面の幅は約四五センチであるが、その断面中に五号堀側の渡土手法面に平行するように約三〇度の勾配で葺石が走っているのが検出された(第11・12図写真)。現在の渡土手の天端より約二メートル、五号堀の底より約三〇センチ低いが、この葺石は三〇度の勾配で更に上下に延びている

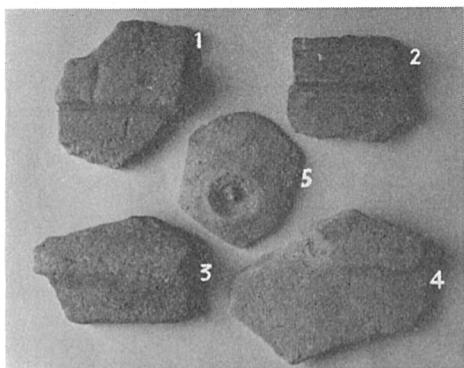
模様である。葺石は前にのべた地山に密着して据えられ、葺石の上は黒褐色の緻密な粘土によって覆われていて、葺石を境として地質上の極めて顕著な相違が認められる。いまこの葺石を直ちに営建時のものと断ずることは出来ないが、現在五号堀に堆積している一メートル以上のヘドロを除去すれば、この葺石面は渡土手本来の護岸として、適当なレベルに位置しているように思われる。葺石の直上にある緻密な粘土は古いヘドロと見られるものであるが、葺石の鑑定等に御教示を頂いた橿原考古博物館次長伊達宗泰氏が、この粘土について、元奈良教育大学教授嶋倉巳三郎氏に調査を依頼された処、この中に含まれる花粉の詳細な分析表を頂いた。それによれば植物環境は現在と殆んど同じであるが、高野槇、蕎麦などの花粉が認められるほか、清水に生育するシャジクモ類の蔵卵器が認められたのが特徴的であるとのことであった。（戸原純一）

八 後嵯峨天皇陵貯水槽拡張工事箇所の調査

昭和四八年一月二二日から二六日まで、後嵯峨天皇陵法華堂背後の貯水槽拡張工事のため、貯水槽の西側東西約七・六メートル、南北約五・三メートルの長方形の区域を約三メートルまで掘削したので、桃山監区職員で立会調査を実施した。一メートル四方程の方形の近世の廃瓦埋納墳があっただけで、他に遺構は無かった。出土物としては、中央部地下約一・五メートルの黒褐色土からあふみ鏡瓦破片二片（第4図拓本5・6）、



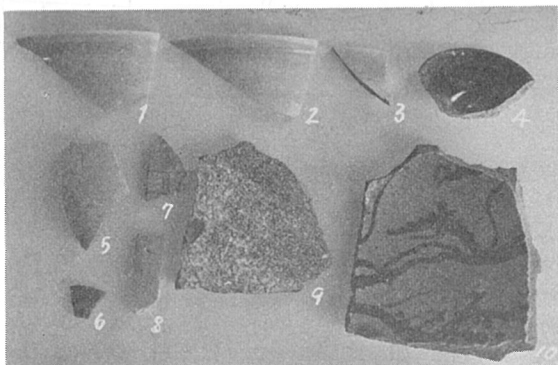
第4図 後嵯峨天皇陵域内出土瓦拓本（縮尺3分の1）



第8図 白鳥陵外堤出土品



第7図 仲哀天皇陵参道埴輪出土状況



第10図 大原陵域内出土陶磁器破片



第9図 大原陵域内石組出土状況



第12図 右葺石部分



第11図 景行天皇陵渡土手葺石出土状況